

子ども誰でも通園制度について

令和7年2月13日 こども未来局

①利用者の視点から

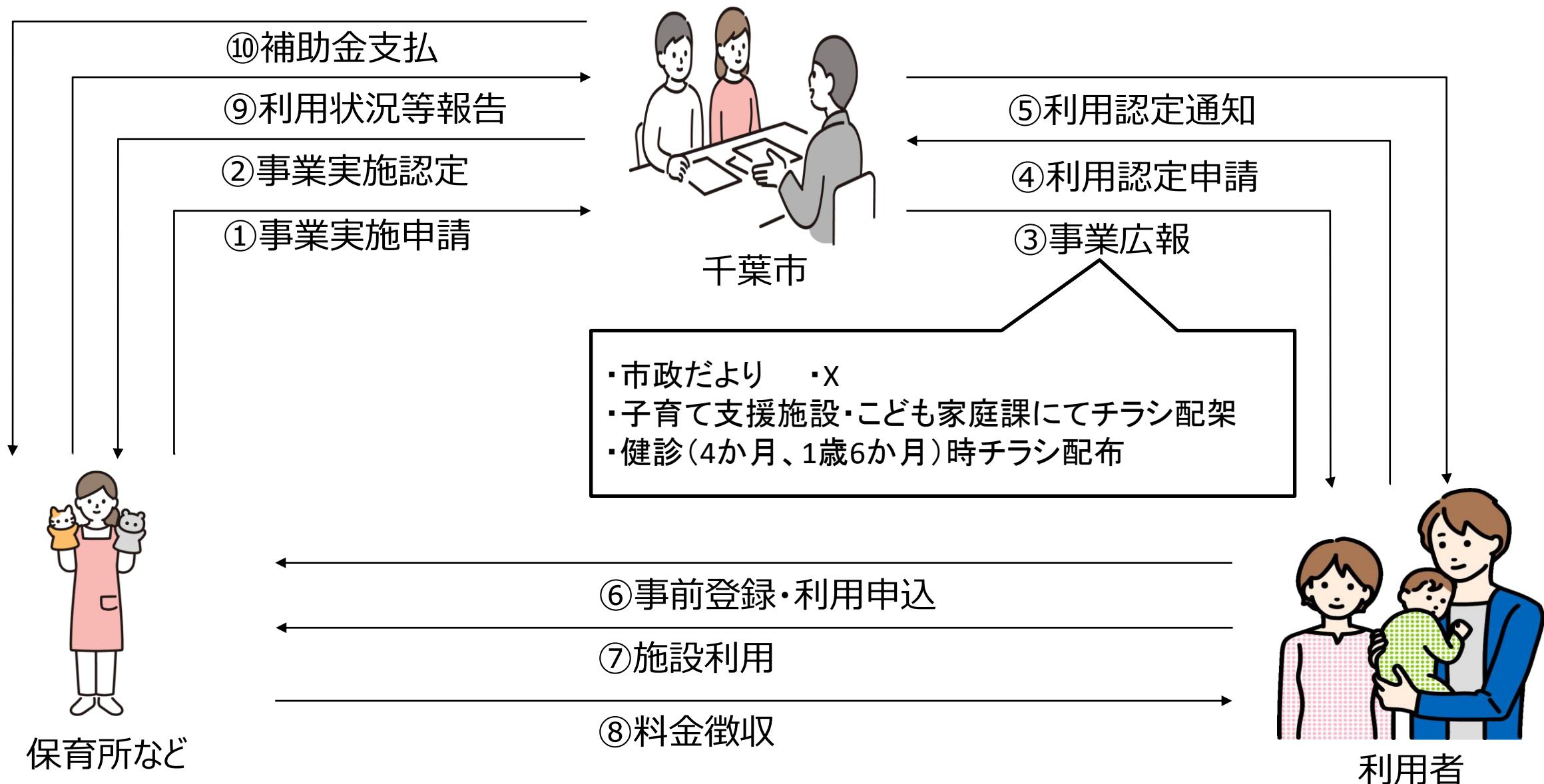
- 対象者 保育所、幼稚園、認定こども園、地域型保育事業、企業主導型保育事業所に通っていない0歳6か月児～2歳児（満3歳児は対象外）
- 利用時間上限 月10時間（自治体負担による上乗せ可）
- 保護者負担額 300円/人/時間
- 利用調整 施設と利用者の私的契約

②事業者の視点から

- 実施施設 保育所、認定こども園、小規模保育事業所、幼稚園等
- 利用料収入 委託料850円/人/時間（障害児は400円加算）
- 設備基準 面積要件（0・1歳児：3.3m²、2歳児：1.98m²）ほか
- 保育士の配置 原則、専従職員を2人以上配置／0歳児3:1、1・2歳児6:1
- 利用者の選考 利用可能枠の範囲で利用の申し込みがあった場合には、当該こどもを受入れ
- 開所日時 曜日・時間限定も可
- その他補助制度 改修費、賃借料補助あり

令和7年度		
0歳児	1,300円/人/時間	
1歳児	1,100円/人/時間	
2歳児	900円/人/時間	

1 事業の概要



2 実施状況

●実施認定施設の状況(R6.12.1現在)

- 保育所 14 施設(うち公立3施設)
- 認定こども園 6 施設 (うち公立1施設)
- 幼稚園 2 施設
- 小規模保育所 2 施設
- その他 1 施設

計 25 施設

No.	事業所名	事業所類型	運営主体
1	アスク海浜幕張保育園	保育所	株式会社日本保育サービス
2	キースチャイルドケア幕張本郷	保育所	株式会社ハイフライヤーズ
3	キースチャイルドケア新田町	保育所	株式会社ハイフライヤーズ
4	キースチャイルドケア桜木	保育所	株式会社ハイフライヤーズ
5	キースチャイルドケア園生町	保育所	株式会社ハイフライヤーズ
6	キースチャイルドケアおゆみ野南	保育所	株式会社ハイフライヤーズ
7	すずらん保育園	保育所	社会福祉法人 精粹福祉会
8	旭ヶ丘保育園	保育所	社会福祉法人 千葉ベタニアホーム
9	チャコ保育園	保育所	トレンドィワールド株式会社
10	小倉台保育園	保育所	社会福祉法人 大きな家族
11	アストロベースキャンプ保育園	保育所	社会福祉法人 宙福祉会
12	轟保育所	保育所	千葉市
13	野呂保育所	保育所	千葉市
14	誉田保育所	保育所	千葉市
15	認定こども園 はまの幼稚園	幼保連携型認定こども園	学校法人 畠山学園
16	認定こども園 白梅幼稚園	幼保連携型認定こども園	学校法人 畠山学園
17	認定こども園 花見川ちぐさ幼稚園	幼稚園型認定こども園	学校法人 井元学園
18	認定こども園 土気中央幼稚園	幼稚園型認定こども園	学校法人 小川学園
19	認定こども園 あすみ中央幼稚園	幼稚園型認定こども園	学校法人 小川学園
20	幸認定こども園	認定こども園	千葉市
21	こてはし台幼稚園	私学助成幼稚園	学校法人 広田学園
22	稻毛幼稚園	私学助成幼稚園	学校法人小林学園
23	キースチャイルドケアみづわ台	小規模保育事業所A型	株式会社ハイフライヤーズ
24	キースチャイルドケア新千葉	小規模保育事業所A型	株式会社ハイフライヤーズ
25	小ばとスタディードミトリー	職員寮兼研修施設	学校法人 聖メリ－学園

2 実施状況

●利用状況

<利用認定件数> ※利用対象となるこども: 約7,000人

申請月	申請件数	0歳	1歳	2歳
5月	217	81	95	41
6月	75	24	28	23
7月	65	27	28	10
8月	56	20	28	8
9月	123	45	54	24
10月	110	45	50	15
11月	47	22	20	5
12月	42	16	26	0
計	735	280	329	126

<所見>

- ・申請件数は、利用対象となるこどもの概ね1割程度が申請している状況
- ・年齢別の申請状況では0歳児が38.1%
1歳児が44.8%
2歳児が17.1%
1歳児の申請が最も多く、0・1歳で8割を超える状況
- ・利用者募集に係る広報は、市政だより(5月・10月)、SNS(X)、健診(4か月・1歳6か月)時のチラシ配布により行っているが、市政だよりの効果が最も高かった。

2 実施状況

<利用実績>

利用月	延べ利用児童数	実利用児童数	利用時間	0歳児	1歳児	2歳児
7月	114人	55人	363時間	95時間	108時間	160時間
8月	88人	46人	268時間	118時間	130時間	20時間
9月	146人	74人	464時間	157時間	155時間	152時間
10月	209人	99人	681時間	280時間	263時間	138時間
11月	261人	123人	829時間	354時間	347時間	128時間
12月	208人	105人	699時間	309時間	276時間	100時間
計	1,026人	197人	3,304時間	1,313時間	1,279時間	698時間

<所見>

- ・利用児童数は**増加傾向**で推移している。
- ・実利用人数197人の内訳は
0歳児:83人(42.1%)
1歳児:76人(38.6%)
2歳児:38人(19.3%)
- ・**0歳児の利用**が最も多かった。
- ・利用申請735人に対し、実利用児童数は197人(**利用率26.8%**)に留まる。
- ・利用申請に対する実利用の割合は
0歳児:83人/280人(29.6%)
1歳児:76人/329人(23.1%)
2歳児:38人/126人(30.2%)
- ・1回あたりの平均利用時間は、**3.2時間**となっている。

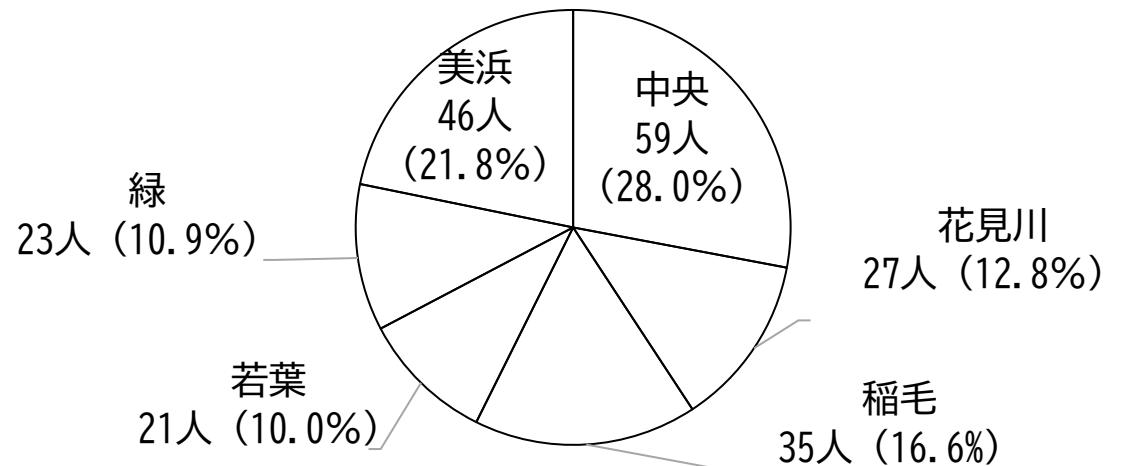
3 利用認定申請者アンケート調査

●調査概要(ちば電子申請サービスによるアンケート調査)

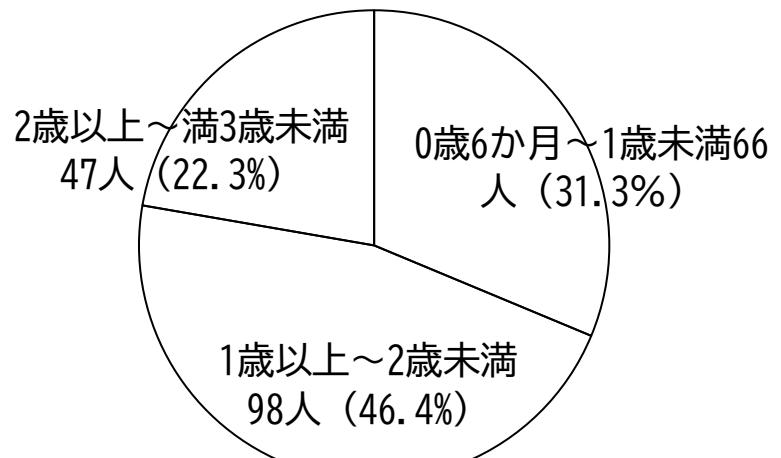
実施期間	12月2日（月）～12月27日（金）	
対象者	利用認定申請者 651名【回答率】32.4% (211名回答) ※認定申請したもの、施設利用に至らなかった者も含む。	
調査項目	<p>Q1 お住いの区を教えてください Q2 お子さんの年齢を教えてください Q3 このアンケートを回答している保護者ご本人の就労形態を教えてください Q4 この事業を、どこ（何）を通じて知りましたか？ Q5 この事業を利用しようとお考えになった理由を教えてください Q6 月10時間の利用可能時間について、どのように感じましたか？ Q7 1時間300円の利用料金について、どのように感じましたか？ Q8 今までに施設を利用したことはありますか？ Q8-1 月に利用した回数は何回ですか？ Q8-2 1回あたり、何時間利用することが多かったですか？ Q8-3 利用した施設を選んだ理由について教えてください。 Q8-4 施設を選ぶ際に、さらに知りたかった情報はありますか？</p>	<p>Q8-5 施設を利用した後、お子さんに何かよい変化はみられましたか。 Q8-6 施設でのお子さんの過ごし方について、よいと感じたことがあれば教えてください。 Q8-7 施設のスタッフの対応について、どのように感じましたか？ Q8-8 事業を利用している間、どのようなことに時間を使うことができましたか。 Q8-9 利用によって、育児負担や育児不安が軽減されたと感じましたか？ Q8-10 利用しなかった理由は何ですか。 Q9 利用する施設に対して、どのようなことを希望しますか。 Q10 この事業に対する感想やご要望をお聞かせください。 Q11 今後もこの事業を利用したいと思しますか？</p>

3 利用認定申請者アンケート調査

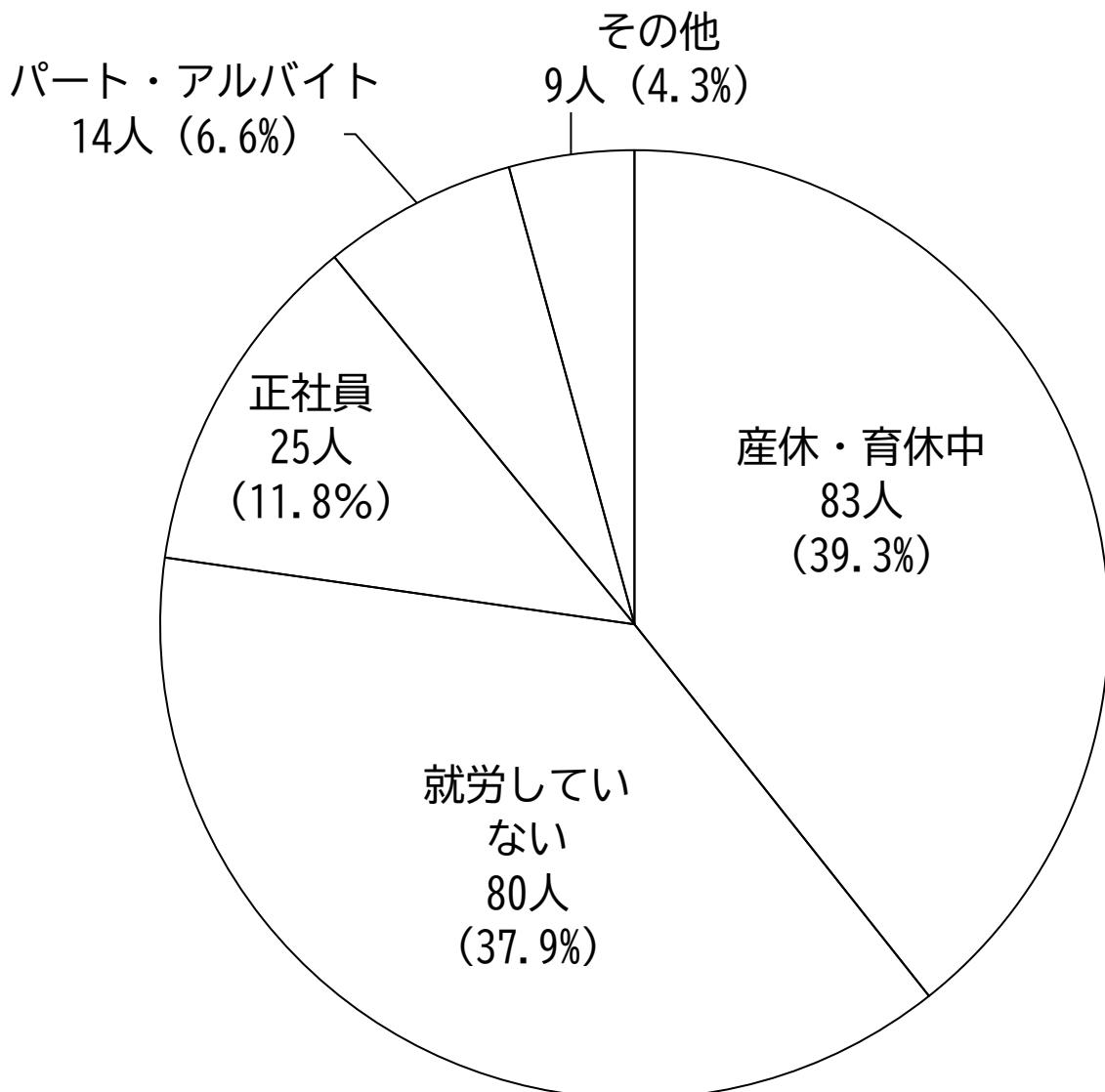
Q1. お住まいの区



Q2. お子さんの年齢

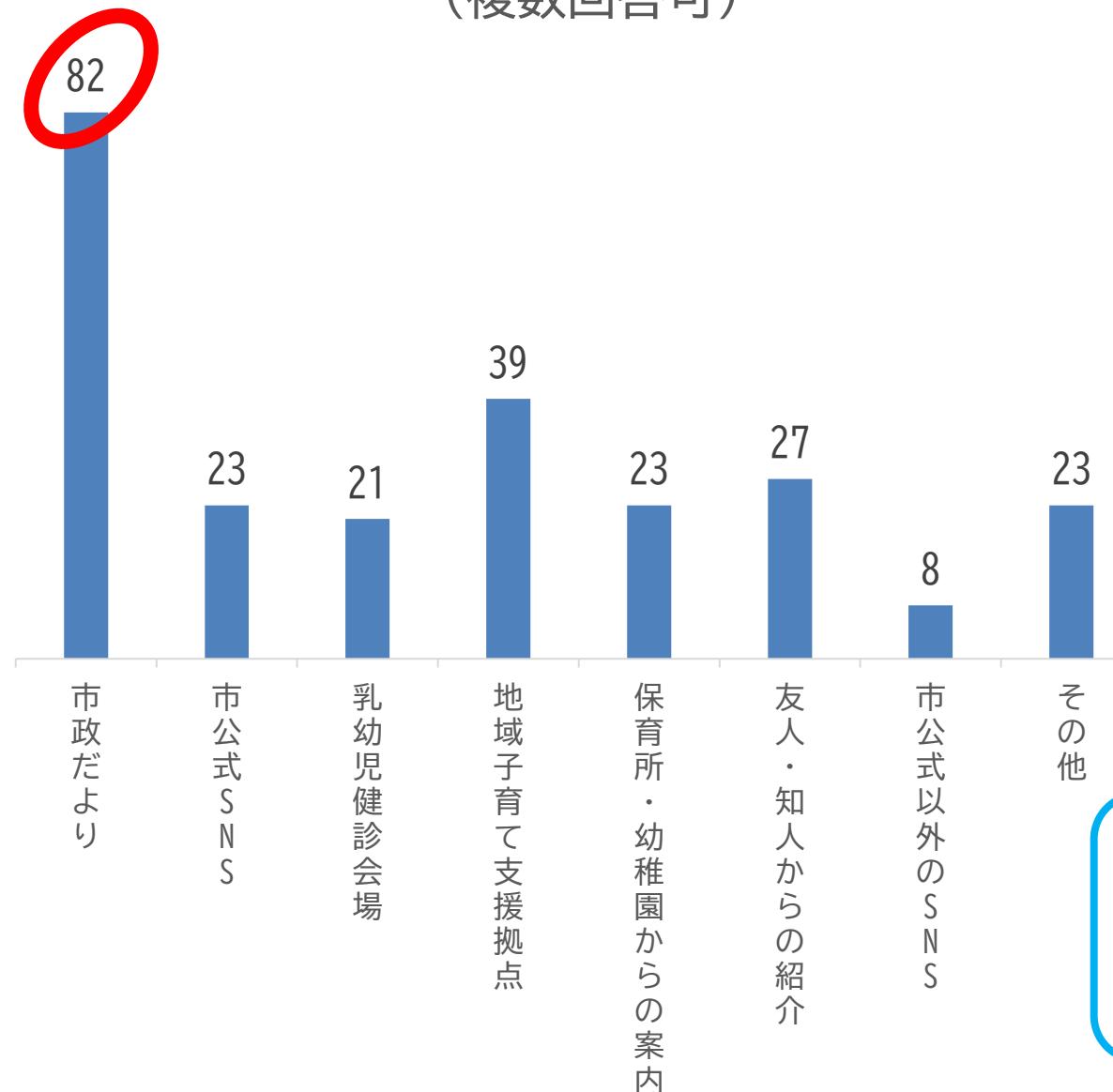


Q3. 回答者の就労形態



3 利用認定申請者アンケート調査

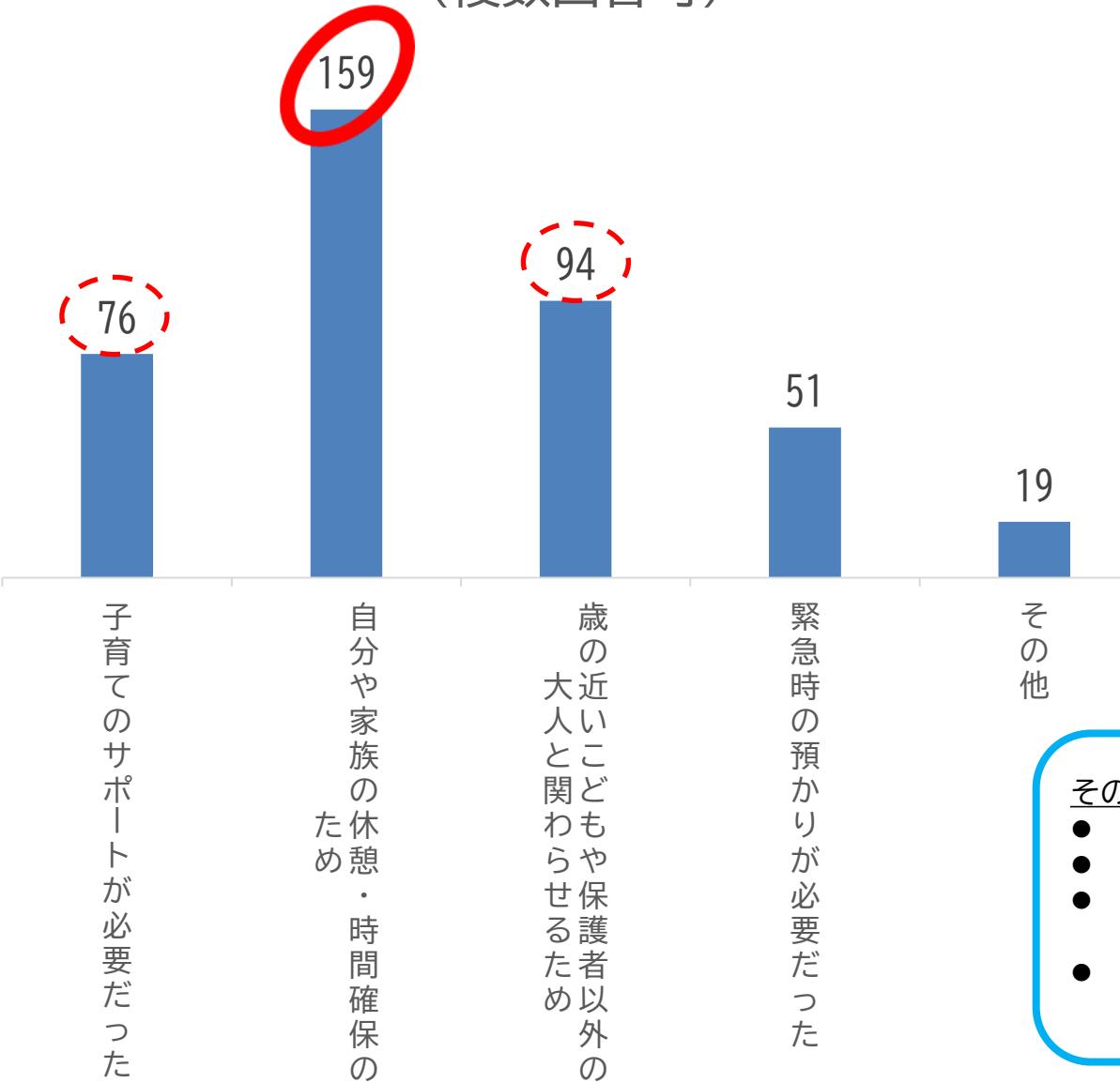
Q4. この事業を知ったきっかけ
(複数回答可)



- 他の主な回答
- テレビニュース
 - ネットニュース
 - 保健師からの紹介
 - 母子ホームからの紹介
 - 幼稚園フェア

3 利用認定申請者アンケート調査

Q5. 利用しようと考えた理由 (複数回答可)

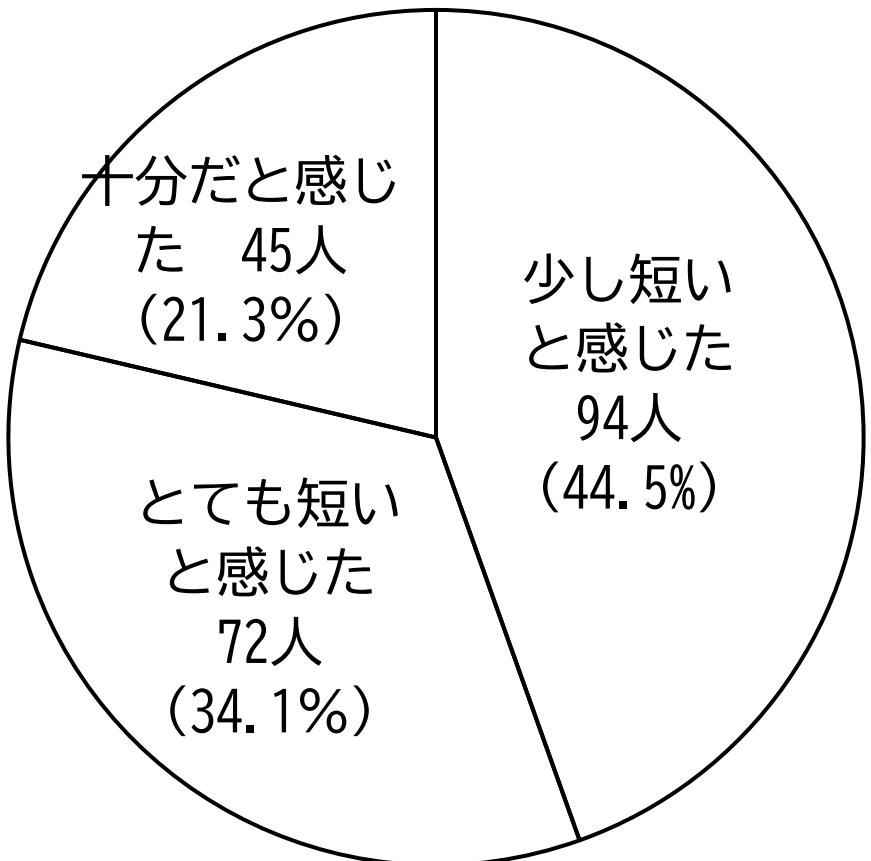


その他の主な回答

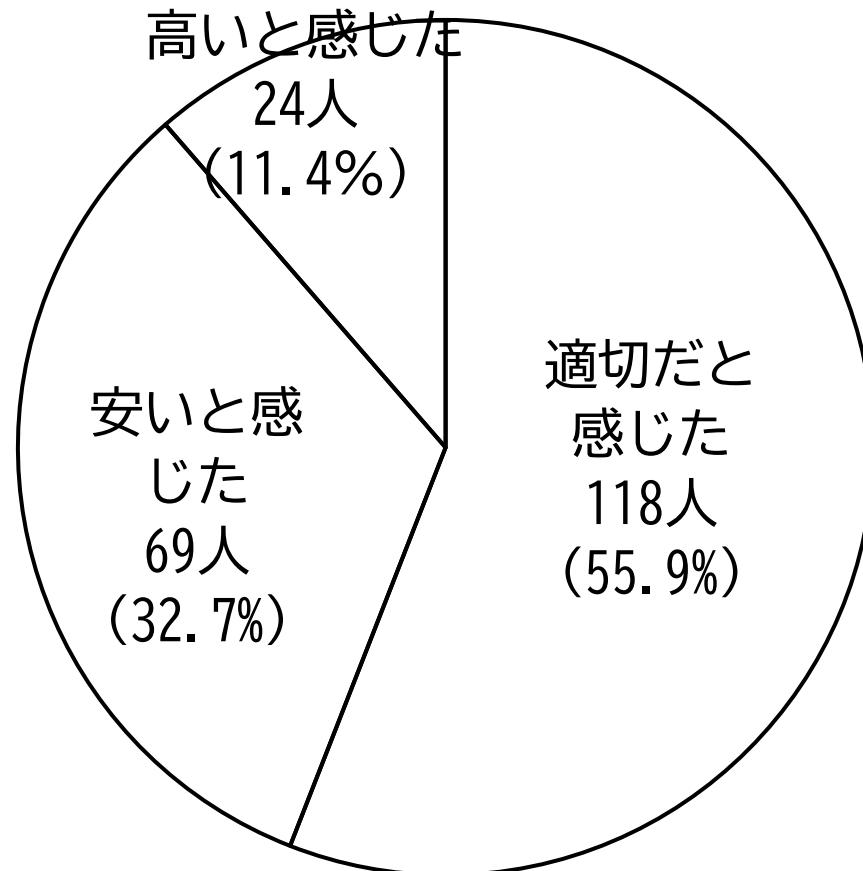
- 集団生活に慣れさせたかったため
- 内職を始めたいため
- 上の子のお迎え時間に合わせて利用できたため
- 下の子が産まれて上の子を存分に遊ばせたかったため

3 利用認定申請者アンケート調査

Q6. 月10時間の利用可能時間について

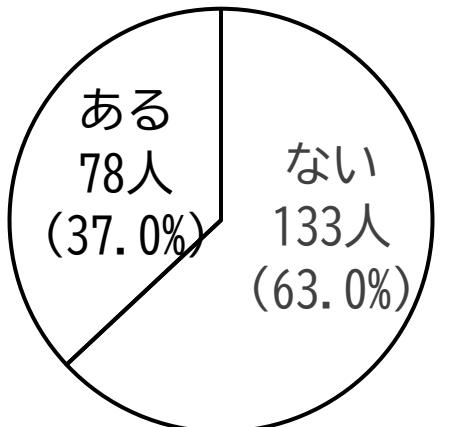


Q7. 1時間300円の利用料金について

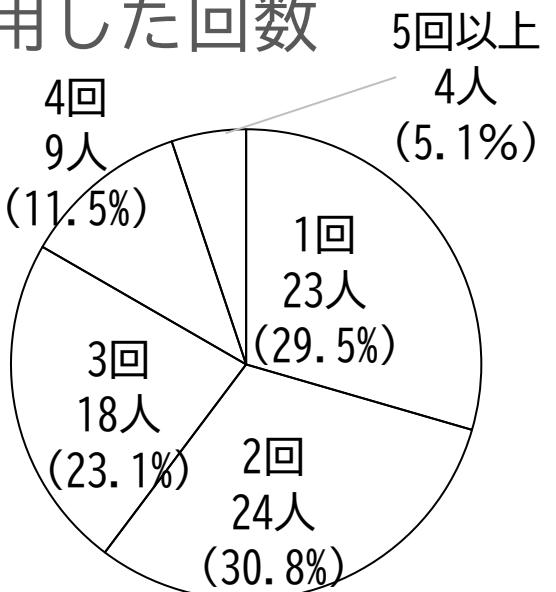


3 利用認定申請者アンケート調査

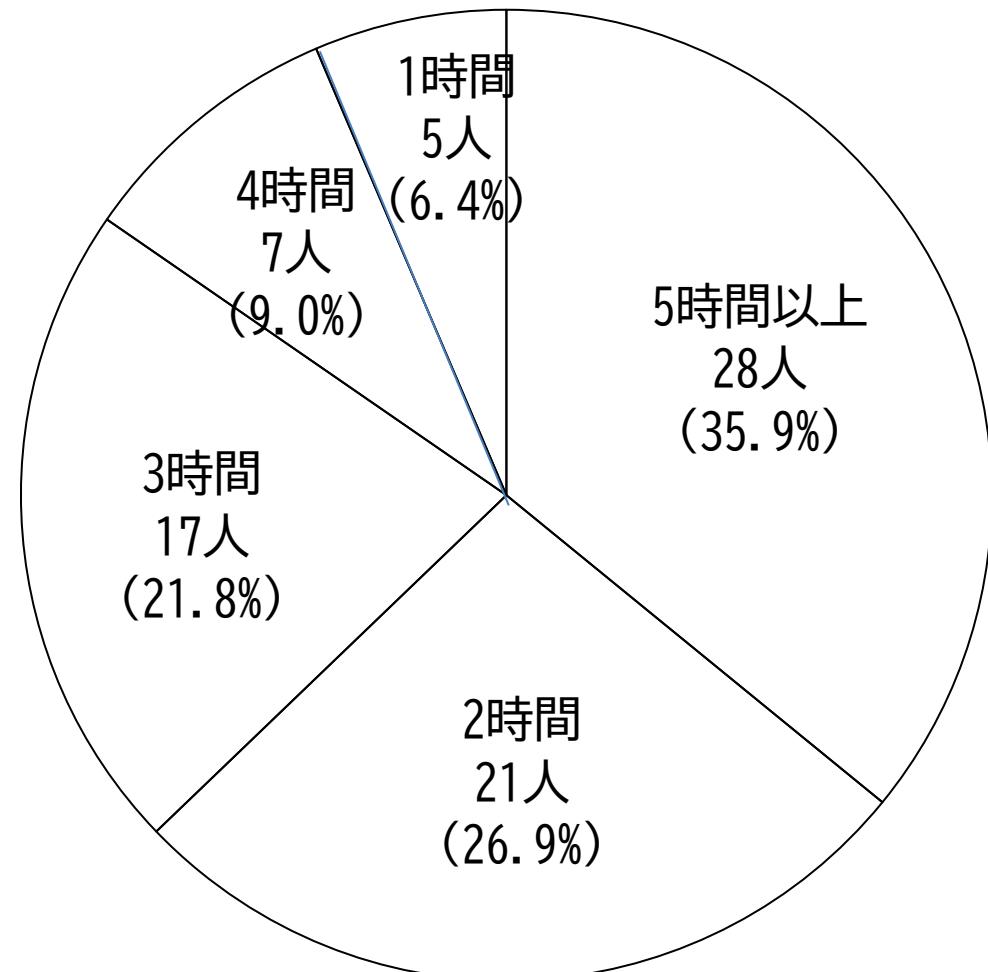
Q8. 施設の利用経験



Q8-1. 月の利用した回数

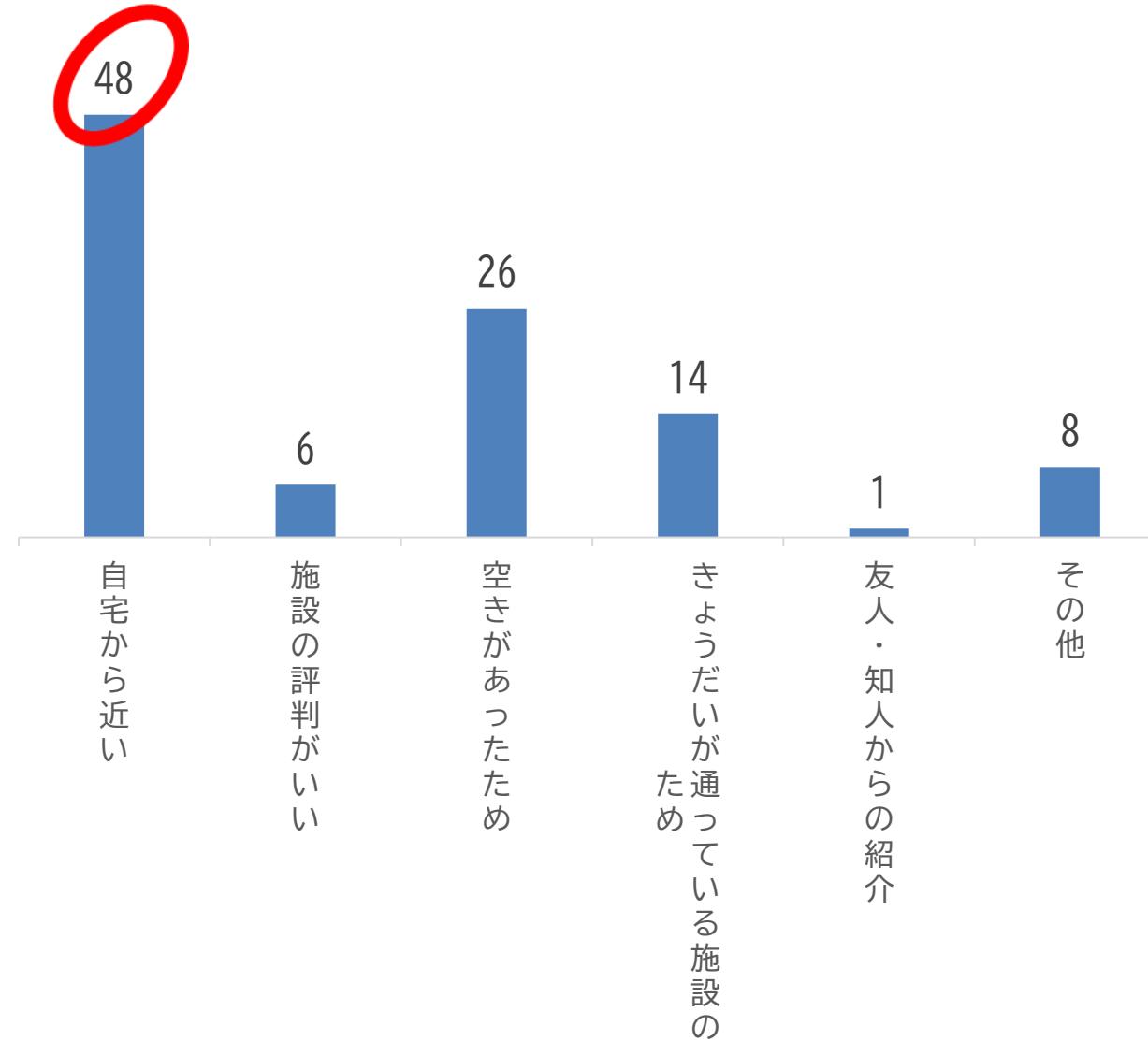


Q8-2. 1回あたりの利用時間



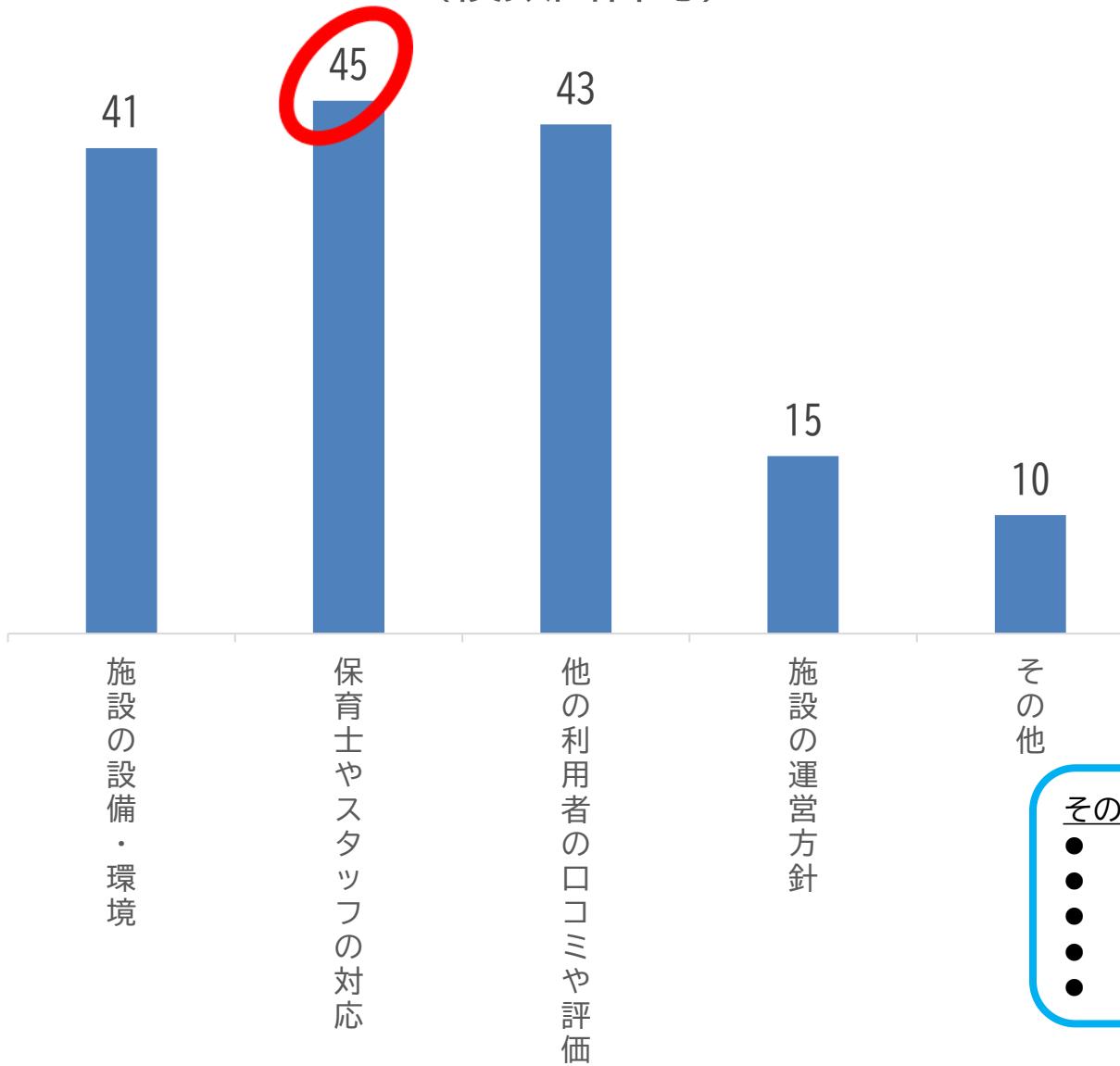
3 利用認定申請者アンケート調査

Q8-3. 施設を選んだ理由 (複数回答可)



3 利用認定申請者アンケート調査

Q8-4. 施設を選ぶ際に知りたかった情報 (複数回答可)

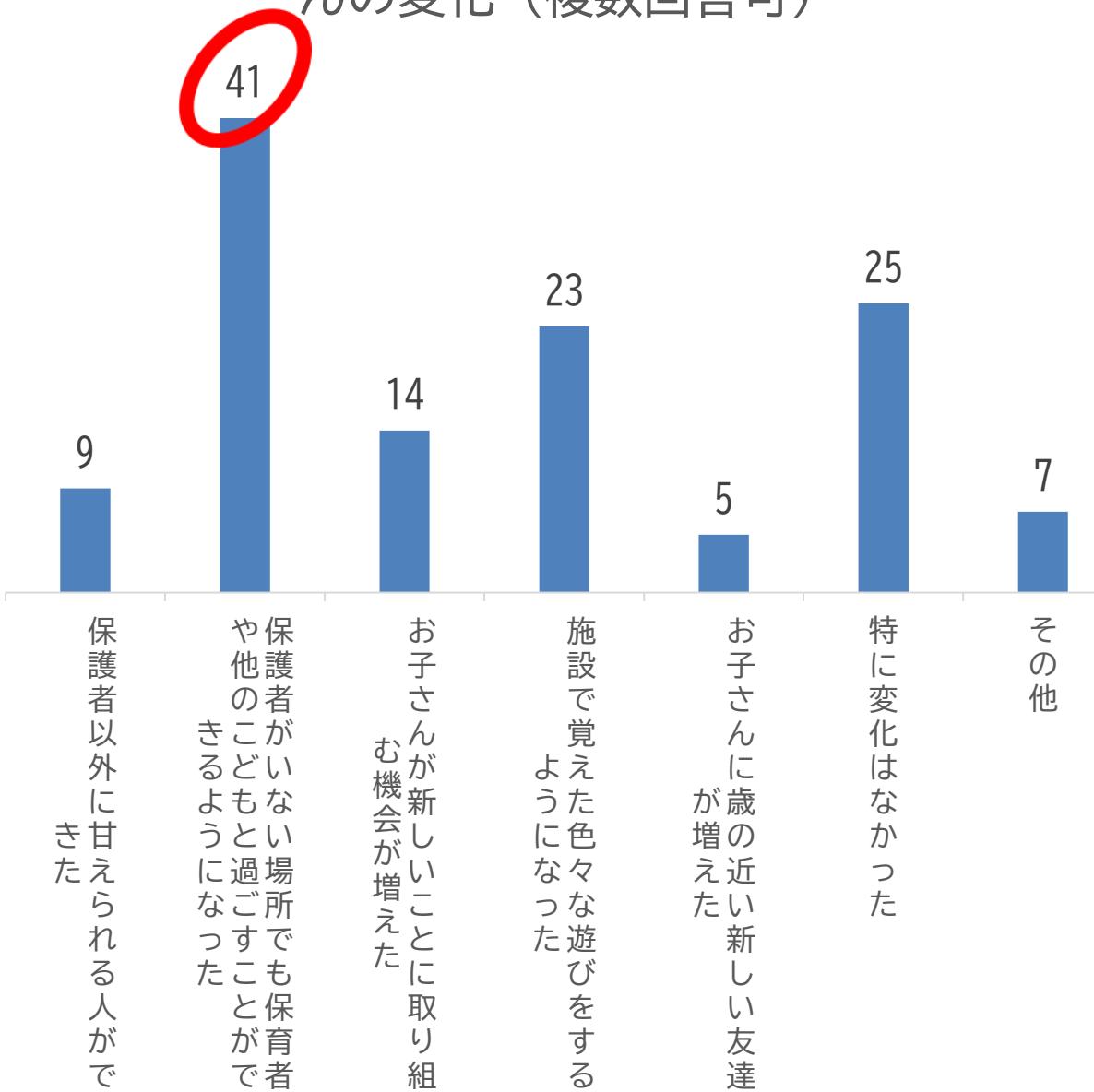


その他の主な回答

- 予約の取りやすさ
- 必要な持ち物の一覧
- 空き状況
- 利用料金以外の実費を事前に知りたかった
- 利用時間帯での活動内容

3 利用認定申請者アンケート調査

Q8-5. 施設を利用した後に見られたお子さんの変化（複数回答可）



3 利用認定申請者アンケート調査

Q8-6. 施設でのお子さんの過ごし方について、よいと感じたこと

1. 身体を動かす機会の増加（2件）

- たくさん身体を動かして遊ぶ機会が増え、本格的な入園前に良い経験ができた。

2. 家庭ではできない遊びの体験（6件）

- 土遊びやお砂場遊びなど、家庭ではできない遊びを体験し、毎回楽しく過ごしていた。

3. 子ども同士の交流（8件）

- 同年代や異年齢の子どもたちと触れ合い、コミュニケーション能力や社会性が育まれた。

4. 給食を通じた成長（5件）

- 家では食べないものを食べるようになり、好き嫌いが減った。

5. 保育士への信頼感（5件）

- 子どもに寄り添う優しい保育士の対応で、安心して通えた。

Q8-7. 施設のスタッフの対応

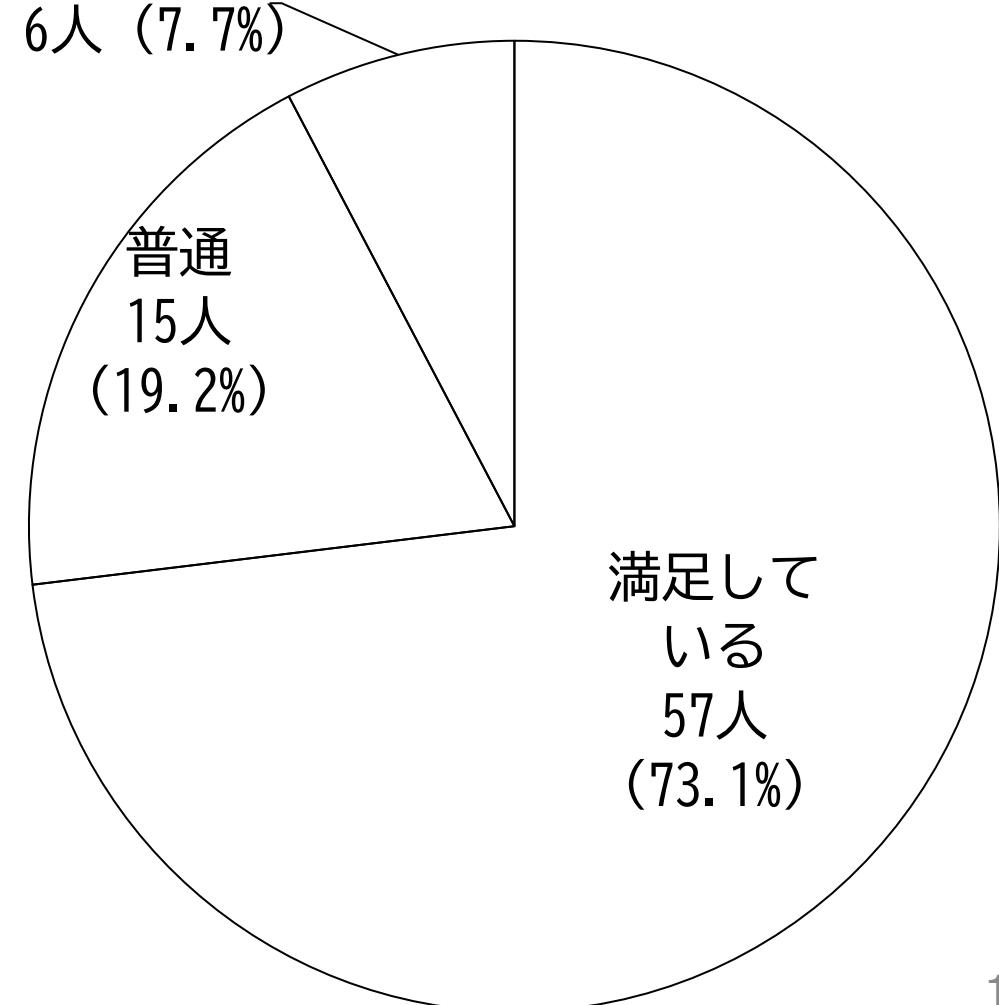
満足していない

6人 (7.7%)

普通

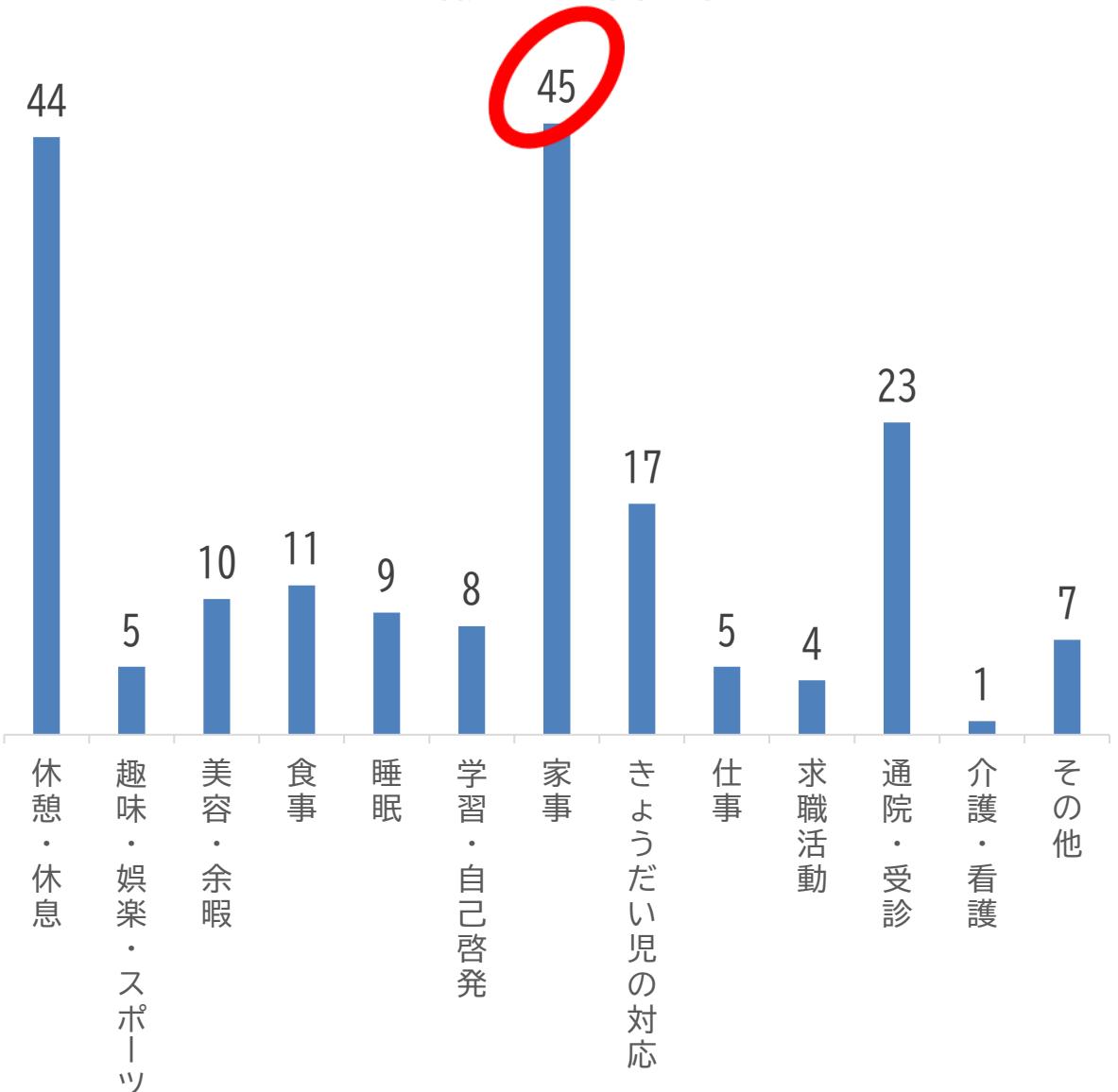
15人
(19.2%)

満足している
57人
(73.1%)

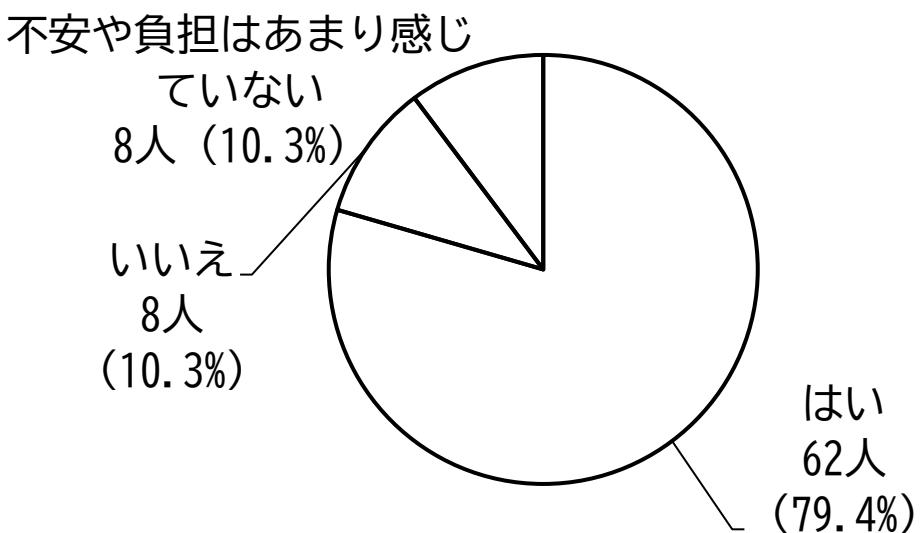


3 利用認定申請者アンケート調査

Q8-8. 利用中の保護者の過ごし方
(複数回答可)

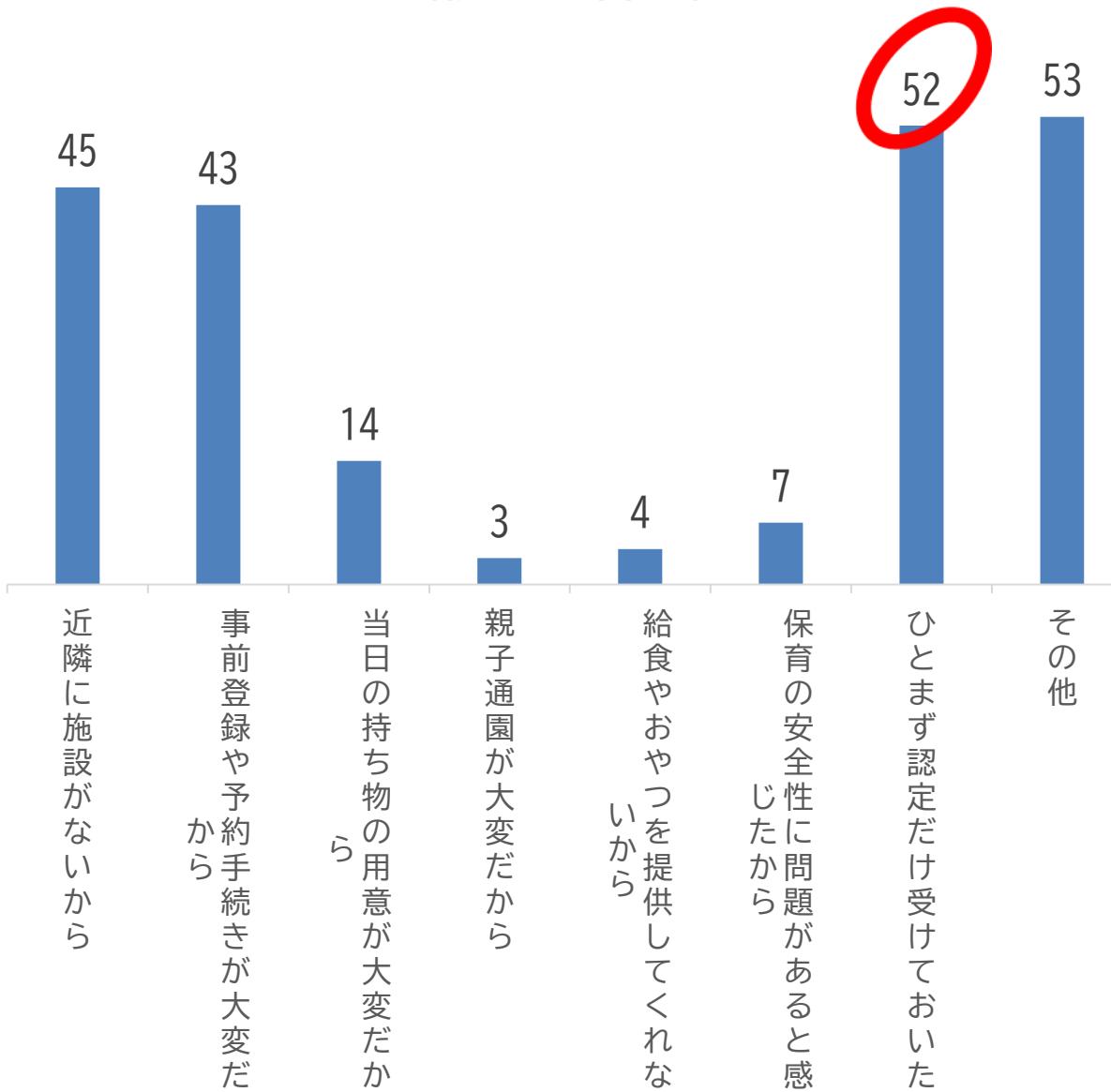


Q8-9. 利用によって、育児負担や育児不安
が解消されたか？



3 利用認定申請者アンケート調査

Q8-10. 施設を利用しなかった理由 (複数回答可)

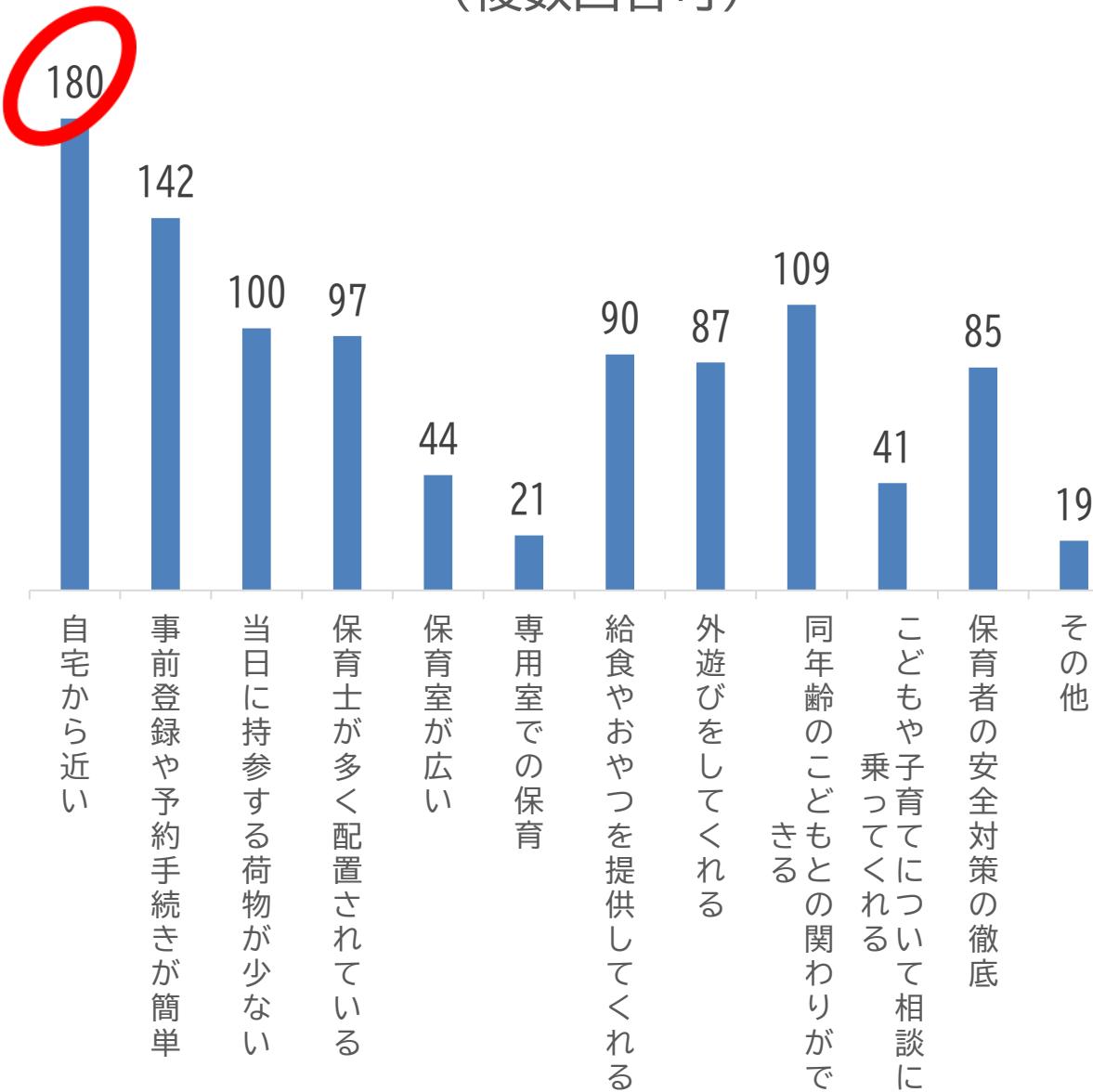


その他の主な回答

- ・空きがない、予約が取れない(15件)
- ・利用予定日が限定されており都合がつかない(5件)
- ・施設の対応や安全性に不安を感じた(5件)
- ・交通手段や場所が不便(4件)
- ・感染症への懸念(3件)

3 利用認定申請者アンケート調査

Q9. 施設への希望事項 (複数回答可)



3 利用認定申請者アンケート調査

Q10. 事業に対する感想や要望（自由記述）

ポジティブな評価

1. 制度自体の評価

- 子どもの社会性や発達が促され、非常に良い制度を感じている。
- 育児の負担軽減やリフレッシュができるといった、親側の精神的な支えになった。。

2. 利用時の満足感

- 保育士の対応が丁寧で安心感がある。
- 保育園で楽しく過ごしている子どもの姿を見て、制度の意義を感じた。

3 利用認定申請者アンケート調査

Q10. 事業に対する感想や要望（自由記述）

意見・要望

1. 利用可能時間の短さ

- 月10時間では短すぎる、せめて20時間程度に延長してほしい。
- 時間を延ばせれば子どもも施設に慣れやすくなる。

2. 施設数・枠の不足

- 利用可能な施設が少ない。
- 近隣に対応施設がないため利用できなかった。
- 予約が取れず、利用を諦めたケースが多い。

3. 予約・手続きの煩雑さ

- 前月までに予約が必要で、急な利用が難しい。
- 複数園に登録できない、希望日に利用できない場合の対応が不十分。
- オンラインで予約や事前登録ができるようにしてほしい。

4. 対象年齢の制約

- 満3歳を超えると利用できなくなるのを延長してほしい。

5. 施設・制度運用上の課題

- 対応にばらつきがあり、不安に感じる。
- 布団や持ち物の準備が負担になる場合がある。
- 施設側の体制が整っておらず、利用者に不便が生じている。

6. 費用面の課題

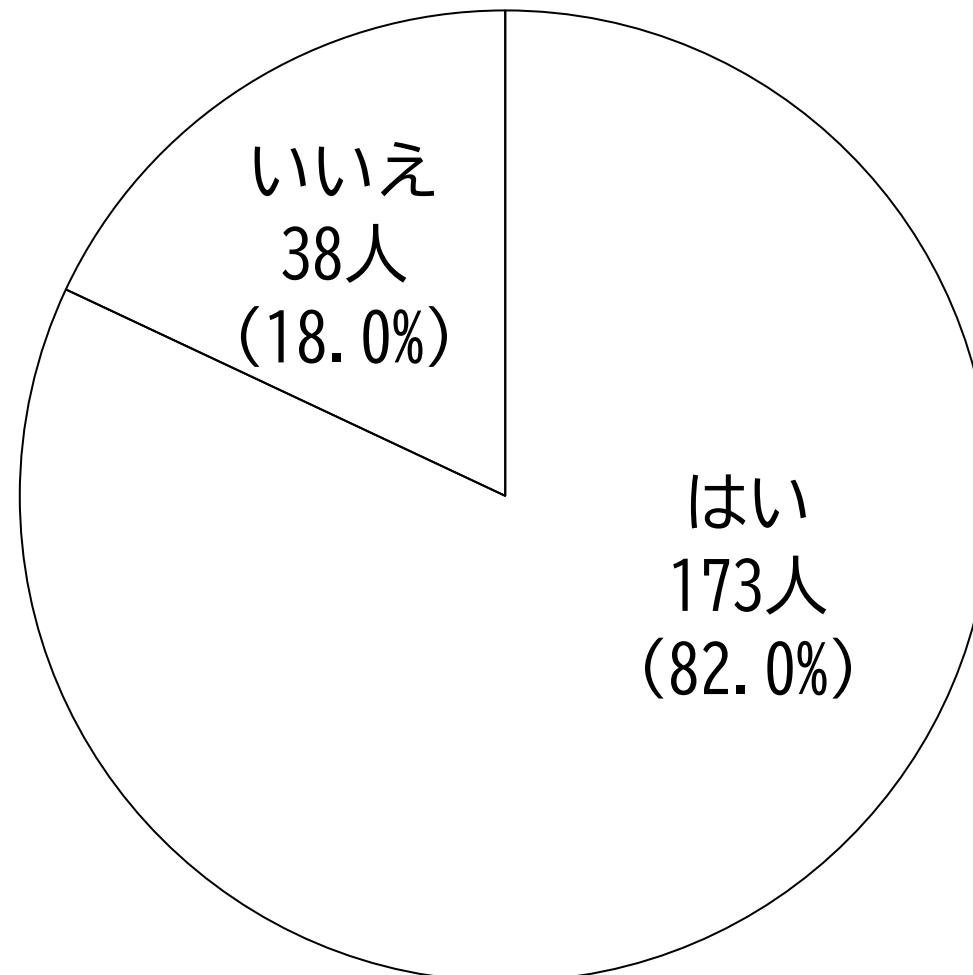
- 300円以外の追加料金（布団や食事など）に負担を感じる。

7. 制度の透明性不足

- 施設ごとの利用条件や子どもの過ごし方が分かりづらい。

3 利用認定申請者アンケート調査

Q11. 今後もこの事業を利用したいか？



3 利用認定申請者アンケート調査

<総括>

- ・事業へのニーズや期待は高いと考えられる
- ・事業の認知度や趣旨・目的に浸透を図るため、更なる周知広報が必要
- ・身近に利用できる施設がない等の理由により利用に至らない方も多いため、実施施設の確保が必要
- ・0歳児の利用が多く、産育休中のニーズの高さがうかがえる
- ・保護者もこどもにとっての好影響を実感しており、レスパイト目的もあるが、発達面からのニーズもあり
- ・保護者の育児不安解消にも寄与している
- ・利用時間等は利用者によってさまざまだが、月10時間は短いとの意見が多数
- ・スタッフの対応への満足度が高い（安心感、信頼感）
- ・（保護者にとっての）利便性と（こどもにとっての）効果・安全性のバランス



従事者・運営者へのアンケート・ヒアリング結果と併せてさらに検証

4 今後のスケジュール

＜国の動向＞

国は、加速化プランにおける全ての子育て家庭を対象とする保育の拡充策として「子ども誰でも通園制度」の創設を明記し、以下のスケジュールで進めることを決定。

【制度創設について（子ども未来戦略一部抜粋）】

0～2歳児の約6割を占める未就園児を含め、子育て家庭の多くが「孤立した育児」の中で不安や悩みを抱えており、支援の強化を求める意見がある。全ての子どもの育ちを応援し、子どもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらない形での支援を強化するため、現行の幼児教育・保育給付に加え、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付（「子ども誰でも通園制度（仮称）」）を創設する

【本格実施に向けたスケジュール】

令和6年度	令和7年度	令和8年度
<ul style="list-style-type: none">○ 制度の本格実施を見据えた試行的事業<ul style="list-style-type: none">・118自治体に内示（令和6年8月30日現在） <p>※年末までに令和7年度の事業内容（人員・設備の基準等）の方針について決定。</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 法律上制度化（地域子ども・子育て支援事業）<ul style="list-style-type: none">・自治体の判断において実施 <p>※年末までに令和8年度の事業内容（給付の詳細等）の方針について決定。</p>	<ul style="list-style-type: none">○ 法律に基づく新たな給付制度<ul style="list-style-type: none">・全自治体で実施

<「事業」と「給付」の違いについて>

乳児等通園支援事業は、令和7年度に子ども・子育て支援法に基づく「地域子ども・子育て支援事業」として法制化され、さらに、令和8年度からは子ども・子育て支援法に基づく新たな「給付」が創設される。

地域子ども・子育て支援事業(乳児等通園支援事業)

- ・地域子ども・子育て支援事業とは、市町村が地域の実情に応じ、市町村子ども・子育て支援事業計画に従って実施するもの

乳児等のための支援給付(特定乳児等通園支援)

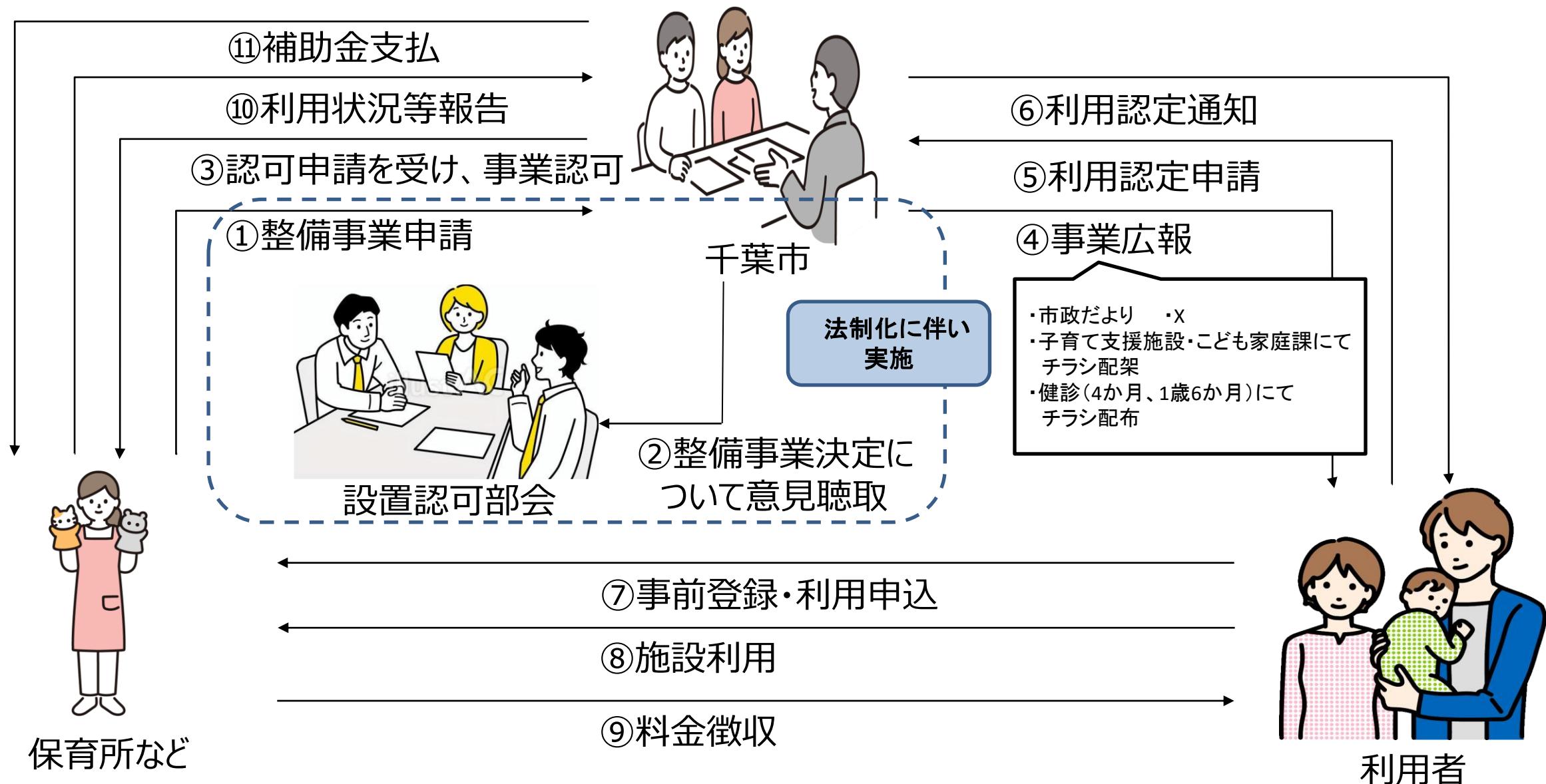
- ・乳児等のための支援給付とは、市町村の責務により、総合的かつ計画的に行うもの(市町村は、利用者に対し乳児等支援給付費を支給)
⇒令和8年度からは、全ての自治体での実施が必須となる。

(全施設での実施までは求められない。)

4 今後のスケジュール

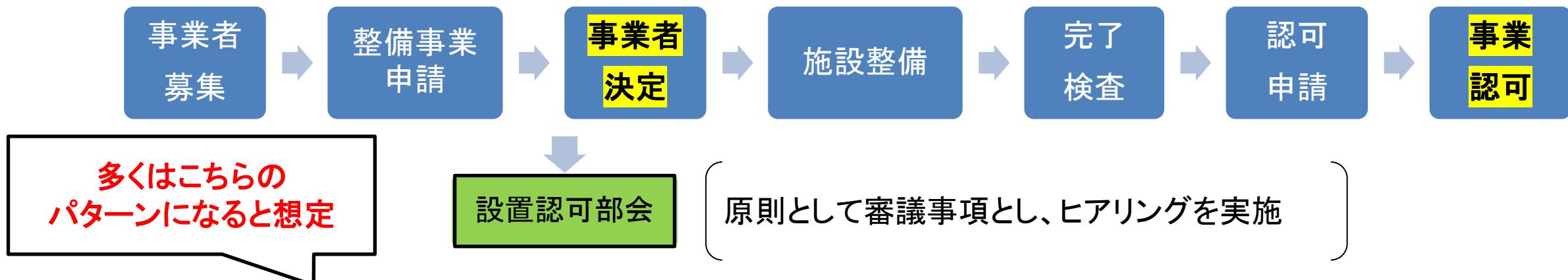
<本市のスケジュール>		※国の進捗に応じて適宜調整
令和7年 1月	従事者・運営者向けアンケート・ヒアリング実施 設備運営基準の内閣府令公布	
令和7年 2月	第1回定例会（条例議案提出） ・千葉市社会福祉審議会条例の一部改正 ・千葉市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定 事業者募集開始	
令和7年 3月	設置認可部会開催 利用者申請受付開始	
令和7年 4月	利用開始（予定） ⇒試行的事業から切れ目なく事業を実施することを目指す。	

4 今後のスケジュール



●認可手順 ※現時点における想定

〈新規施設等で実施する場合〉 ⇒保育施設の整備と概ね同じ手順



〈既存認可施設（幼稚園・保育園等）で実施する場合〉 ⇒整備申請と認可申請を兼ねる（簡略化）

